



世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「自分の“普通”を変える」

青年海外協力隊OB 田嶋 駿樹(たしま としき)さん

(平成 27 年 6 月 ～ 平成 29 年 6 月 セネガル派遣 職種：小学校教育)

「外国」と聞くとどのようなイメージを持たれますか？私は、大学に進学するまで、外国に対して特別な感情を持っていたわけではなく、外国人に街中やレストランなどで出会うとなぜか緊張してしまったり、声をかけづらかったりと「壁」のようなものを感じていました。そんな中、大学プログラムの一環で韓国の現地学生と共同活動を行いました。活動以外の時間を共にすることで、自然と外国人という「壁」が薄らいでいきました。そのような経験をして、「外国の人々と共に生活してみたい。」「自分の視野を広げたい。」と考えるようになり、青年海外協力隊の道へ進むことにしました。

2年間、アフリカのセネガルへ小学校教育という職種で派遣され、現地の教員と教師を目指す学生に対して、主に算数の指導力向上の支援を行いました。普通の授業や教育実習などの観察を通して共に改善点を探り、現地の実態に寄り添いながら新たな教授法の提案、実践へとつなげていきます。ただ、2年間の



授業風景の様子

活動が順風満帆だったわけではありません。活動では様々な困難がありました。そんな中で、2年間の隊員生活を最後まで全うできたのは、同僚や友人、家族に支えてもらったからだと思っています。

そんな2年間の経験を通して、自分の中で大きく変化したと覚えることがあります。それは、「普通」という言葉のとらえ方です。日本で生活していれば、当然日本社会の様々なルール、生活、価値観などが「普通」だと感じます。外国へ踏み出す前の自分もそうでした。しかし、外国に出ればその日本の「普通」がその国の「普通」でないことを強く実感します。生活などを見てみれば、断水や停電は日常茶飯

事、日本と比べればものが少ないなど、わかりやすいと思いますが、このような違いは、TVなどで何となく知ることができます。しかし、価値観や考え方は実際にその国の人々と触れ合ってみなければわかりません。ひとつの例をあげると、平和に対する考え方があります。日本で「平和」という言葉は、

耳にはするけれどいまひとつ実感していなかったように思います。それがセネガルでは、日々、「平和ですか？」「平和です」という挨拶を繰り返し、平和とは大切なもので身近にあるものという考え方がセネガルの「普通」なのです。日本の「普通」の立場から、発展途上国と呼ばれる国をみれば、「貧しい」「少し怖い」などマイナスイメージを持ちがちかもしれません。しかし、セネガルで暮らす多くの人々は、お互い気遣い、助け合いながら、平和を身近に感じて笑顔で毎日を生きていました。

私は、自分が持っていた「普通」が2年間のセネガルでの日々を経験したことで、徐々に変化し、自分自身も変わっていったように感じています。他の「普通」を理解する態度を持つことで、自分の視野が広がり、寛容な心を持つことが出来るようになりました。この変化は、きっと新しい環境へ踏み出したから生まれたものだと思います。新たな環境へ足をのばすことは簡単なことではないかもしれませんが。ただ、私は、そこでしかできない経験がきっと待っていると思っています。協力隊の経験を糧に、これから先も色々なことに挑戦し、変化を恐れず歩んでいきたいと思っています。

